高校二年生　八月「第二回全統模試」対策問題「古文」　（配点：五十点　時間：二十分）

◆次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

平重衡（三位中将）は、一の谷の戦で源氏に敗れ捕虜となった。都から鎌倉へ連行される際、京にいる妻の大納言佐（＝北の方）に最後の別れをしたい、と願い出て叶うことになった。

㋑中将なのめならず喜びて、「大納言佐殿（だいなごんのすけとの）の御局（つぼね）は、これにわたらせたまひさうらふやらん。本三位中将殿の、ただ今奈良へ御通りさうらふが、立ちながら見参に入らばやと仰せさうらふ」と、人を入れて言はせければ、北の方聞きもあへず、「いづらや、いづら」とて、走り出でて見たまへば、藍摺（あいずり）の直垂（ひたたれ）に折烏帽子（おりえぼし）着たる男の、痩せ黒味たるが、緑[1]に寄りゐたるぞ、そなりける㋐。北の方、御簾（みす）の際近く寄つて、「いかに、夢かやうつつか。これへ入りたまへ」と宣（のたま）ひける㋒御声を聞きたまふに、いつしか先立つものは涙なり㋓。大納言佐殿、目もくれ心も消えはてて、しばしは、ものも宣はず。三位中将、御簾うちかづいて、泣く泣く宣ひけるは、「去年の春、一の谷でいかにもなるべかりし身の、せめての罪のむくいにや、生きながら捕はれて大路を渡され、京・鎌倉、恥をさらすだに口惜しきに、はては奈良の大衆（だいしゅ）[2]の手へ渡されて斬らるべしとて、まかりさうらふ。いかにもして今一度、御姿を見たてまつらばやと思ひつるに、今は露ばかりも思ひ置くことなし。出家して、形見に髪をもたてまつらばやと思へども、許されなければ、力及ばず」とて、額の髪を少し引き分けて、口の及ぶところを食ひ切つて、「これを形見にご覧ぜよ」とて、たてまつりたまふ㋔。北の方は、日ごろおぼつかなくおぼしけるより、今ひとしほ悲しみの色をぞ増したまふ㋕。

注(1)緑…家の外側板敷きの部分。　(2)大衆…大勢の僧侶

問一　傍線部㋑㋒㋓の語句の本文中における意味として適切なものを一つずつ選べ。（各二点　計四点）

㋑なのめならず　一、まっすぐに　二、正直に　三、誰よりも　四、格別に　五、いつまでも

㋒いつしか　一、いつか　二、早くも　三、いつでも　四、どうしても　五、ひときわ

問二　傍線部あを、内容を具体的にして現代語訳せよ。（八点）

問三　傍線部㋐㋑㋒の敬語について、㋑敬語の種類を述べ、㋒誰から㋓誰への敬意を示すか。選択肢から一つずつ選べ。（各完答四点　計十二点）

一、三位中将　二、大納言佐　三、筆者　四、読者

問四　傍線部いを現代語訳せよ。（十点）

問五　傍線部うは、「今はよりいっそう悲しみが増しなさった」という意味である。何と何を比較して、「よりいっそう悲しい」と感じたのか。六十字程度で答えなさい。句読点は一字と数える。（十三点）

問六　本文は「平家物語」の抜粋である。以下の作品群の中から、本作品より成立が新しいものを一つ選べ。（三点）

一、増鏡　二、保元物語　三、今昔物語集　四、水鏡　五、平中物語